

願い、

平和

「戦争しない・させない」

いのち輝く社会を

私たちは、「憲法9条と子ども・青年の命を守る退職教職員」アピール運動にとり組み、府下各地の退職教職員2千名を超える方々からアピール賛同表明が寄せられています。安倍政権は、秘密保護法制定、集団的自衛権行使の法制化など、日本を再び「戦争する国」に方向転換しようとしています。戦後70年の節目。いま、平和が戦争が問われています。「戦争は絶対ダメー平和憲法を守りいかそう」の声を集め、共同の力で安倍「暴走政治」にストップをかけましょう。



「新しい出発」(切り絵) 橋爪 満雄さん(泉南退職教職員・87歳)

東京大空襲で焼け出され、必死の思いで大阪・岬町に避難されてこられた。切り絵左には住んでいた近くの両国国技館が描かれています。

退職教職員の声

●「戦争しない国」を アピールし続けましょう

友は
帰らなかつた



大阪私学退職教職員
小畑 哲雄さん

「ほんなごつば言う
と、俺は行きつうなか」
「体に気をつけて」私の
ことばに〇君は、こう答
えた。一九四四年四月八
日、雨の降る熊本駅での
別れであった。旧制熊本
中学の寮で四年間、同じ

多めの兵士の中で肉親が
あつた。あの戦争で亡くなつた
姉さんは、突然「公用」
の腕章を巻いた兵士の来
訪に驚き病院に駆け付け
たが、間に合わなかつた
という。

釜の飯を食つた親友は、
加古川の陸軍特別幹部候
補生の教育隊に入り、そ
の後「兵長」となつて北
京に赴任した。北京に
は、彼のお姉さんがい
た。その住所がようやく
わかり、次の外出時には
会いに行くと楽しみにし
ていた。弟が北京にいら
ることなど知らなかつたお
姉さんは、突然「公用」
の腕章を巻いた兵士の来
訪に驚き病院に駆け付け
たが、間に合わなかつた
という。

戦争しない国、
世界にアピールを



泉北退職教職員
浜岡 弘美さん

4歳の時、近くの幼稚
園に通い始めました。毎
日たくさん遊べて楽し
く、また大きなまっ白な
オウムに会えることも楽
しみの一つでした。その
後、空襲警報で防空壕に
入る日も多くなり、幼稚
園は休園になりました。
友達と遊べなくなりまし
た。幼稚園に近かつた
ので時々オウムを見に行
つたことを覚えていま
す。

やがてオウムがいなく
なり、空襲による火事を
広げないため強制疎開で
家もつぶされてしまい、
悲しい思いをしました。
戦争は大人にも子どもに
も悲しい思いをさせま
す。平和が大切です！平
和の中でこそ、貧しくて
も楽しい生き方ができる
のだと思います。70年間
守ってきた9条を守りぬ
き、戦争しない国を世界
にアピールし続けましょ
う。

コラム

最近、教師に「先生、日本は戦争をする国になるの？」と不安げに聞く子どもが増えたという。「おとなは、なぜ戦争するの？」…こんな問いかけが広がり始めたのは、イラク戦争の頃からだ▶「人を殺せば罪になるのに、なぜ戦争では殺してもいいのですか？話し合いで解決できないのですか？」子どもたちが、不安を抱き、問いかける▶小3国語教科書に「ちいちゃんのかげおくり」(作・あまきみこ)がある。体の弱い父親が戦争に駆り出され、空襲で家を焼かれ、ちいちゃんは母も失う。最後は飢えて「小さな女の子の命が空に消えていく」というお話だ。子どもたちは、戦争で無辜の幼い命が消されることを知る。命の尊さ、戦争の酷さを学んだ幼い心は柔らかい▶『おおさかの子どもと教育』77号(大阪教文センター発行)に、ある高校生から投稿があつた。自宅に大学案内の資料に紛れて、自衛隊からの勧誘書類が届いたという。翌日、級友にも同様の書類が届いていることがわかつた。知り合いの青年に聞くと、安倍内閣が「集団的自衛権行使を可能とした閣議決定」をした直後のことであつた。高校生は、家族、友人、大好きな人が殺し殺される「戦争」が浮び、震えるほど恐怖心にかられたという▶教育は命を輝かせる営みだ。この不安と問いかけに、おとなと社会は応える責任がある。子どもと若者たちを血で染めてはならぬ。未来を生きるのは子どもたちなのだから。(九条居士)

応えよう。子どもたちの不安と問いかけ